様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：３４５１３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ０２９９０

研究課題名（和文）小学校英語教育：ニーズ分析とオンラインを用いた研修教材開発

研究課題名（英文）English Education in Elementary Schools: A Needs Analysis and Online Materials

研究代表者
作井　恵子（Keiko, Sakui）

神戸松蔭女子学院大学・教育学部・教授

研究者番号：７０４１１９０７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：新学習指導要領の改訂に基づき、２０２０年度からの外国語活動の早期化が実施され、また外国語科が正規の科目となるなど小学校における外国語（英語）教育は大きく変化している。この大きな変革期を前に本研究では移行期とされる時期に小学校教員の英語教育への意識調査、その英語力に関する自己評価、また英語教育に関する研修のアンケートなどを実施した。またさらに小学校での英語教育の授業参観・教員へのインタビューなどを行い小学校英語の実態調査を行った。
これに加え、韓国・中国・カンボジアの英語教育、英国、NZの外国語教育についての視察を行うことにより日本での外国語教育をより広い視点から概観できるよう調査を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
小学校における英語教育については新聞等、メディアでも多く報道されており社会的な興味も高い。しかし、英語が小学校に導入されるにあたり、英語力あるいは英語指導力への不安を抱える小学校教員も少なくない。本研究では、Can-Do方式を取り入れたアンケートを通して自身の英語力・英語指導力を客観視できるように努めた。またその結果から必要とされる研修内容などをまとめウェブサイトとして公表した。

研究成果の概要（英文）：The implementation of the new Course of Study for Japanese elementary schools published by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology commenced in 2020. In this reform, English is being introduced to younger grade children and English has become a core subject for the first time. This study was carried out during the period when teachers and schools were preparing for this change. The empirical research was carried out to investigate and analyse three main perspectives of elementary school teachers: 1) their beliefs and attitudes towards this reform; 2) a self-evaluation of their English abilities; and, 3) their classroom practices. In addition, in order to provide an international context for the Japanese reform, English teaching practices in South Korea, China and Cambodia as well as foreign language education in the UK and New Zealand were observed.

研究分野：英語教育

キーワード：小学校英語　教員研修

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

２０２０年には、新学習指導要領が実施される小学校での外国語活動が３，４年生に早期導入され、外国語科が５，６年生で教科となり戦後最大の英語教育改革となると言われている。これまで小学校における英語教育については、1980 年代の臨時教育審議会での早期英語教育の小学校への導入が検討されて以来、ついに 2013 年度に正式な小学校英語の教科化が発表され、我が国の言語教育政策について多大なる時間と議論が費やされてきた。これまでの小学校での英語教育改訂について概観すると、当初の目標は、国際理解に必要な資質を育成するための英語教育なのか、技能・スキルとしての英語教育なのかが揺れ動いてきた時期があったが、これは後に 2003 年に有識者会議の結果をまとめた『「英語が使える日本人」育成のための行動計画』で小学校における「英会話活動」と記されるようになった。国際理解という目標に加え、「聞く」「話す」に特化した英語をスキルとして学ぶという点にシフトしたと解釈できる。また今回の教科化では「読む」「書く」技能が追加され総合的な４技能の育成を目指すことになった。

このように小学校英語に関してはその目標や指針がいくどかの変遷をへて早期化・教科化に至った経緯がある。そして２０２０年に向けて、大きなかじ取りがなされたわけだが、その中で実際に授業を担当する小学校教員の声を代弁する機会は決して多くなく、その改訂に関して反対意見・あるいは不安視する声がなかったわけではない。

こういう状況の中、本研究の目的は、２０２０年度から実施される小学校中学年に向けた外国語活動の早期化、および高学年を対象とする外国語科の正規科目化をみすえ、移行期にある２０１６年度から２０１９年度までの間に、小学校では英語教育がどのように推進・実施されているのか、また課題は何かをアンケート調査および小学校教員および関係者に聞き取り調査を行う、また授業見学などを通して明らかにすることであった。これを受けて研究計画としては、科研１年目および２年目はアンケートや聞き取り調査など主にデータ収集をし、３年目はそれを分析し結果を発表するというものであった。まず、この研究の第一の背景は教員の声を少しでも代弁しようというものであった。

具体的には、事前調査を行ったところ、小学校教員の間には、英語教育早期化や科目化に対しての漠然とした不安、および教員自身の英語力や英語指導力への自信のなさが問題となっていることが明らかになった。特に漠然とした不安は教員の過去の英語教育の経験、研修の機会がないこと、また小学校教員の中には、中学校英語教員資格や、英語資格試験などを持っている者も多くないため、ある意味情意的な不安感であるということが言えた。

このため、本研究では、まず小学校教員の英語力を分析するためのツールを作成し、それをアンケートとして配布することで、まず英語力をどう定義するか、またその現実的な能力をどう設定するか、という点を明らかにすることにした。また、小学校で効果的な英語教育が行われるためには、教員向けの研修が必要である、との認識から、本研究が発足した当初にどのような研修が行われ、その内容について、あるいは頻度、またどういった形式で行われているかを調査すると同時に、教員はすでに行われている研修以外にどういった研修内容・形式・頻度などを望んでいるかを調査した。主にこの２点、１）教員の英語力と英語指導力および、２）必要とされている研修内容をもとに、ニーズ分析をしたあと、小学校教員に必要な情報をウェブサイトにまとめるという研究をすることが本研究当初の背景である。

２．研究の目的

先述のとおり、本研究では、まず小学校教員の英語教育に関する実態を明らかにすること、またその声をなるべく代弁することが第一の目的であった。具体的には、英語力を分析するためのツールを作成し、それをアンケートとして配布することで、英語力を客観視できるようになることから、漠然とした不安感を払拭しつつ、自分たちの能力を認識すること、また次の目標が設定できるような機会を設けることを目的とした。また、小学校で効果的な英語教育が行われるためには、教員向けの研修が必要であるため、どういった研修内容、形式が望ましいと思うか、という小学校教員の観点から研修内容に関するニーズ分析も行った。

さらにこれらとは別に、教職科目を担当する本研究に携わる研究者３人が、児童英語・小学校英語についてより広い観点から、日本が直面する小学校英語について概観できるように日本と同じように小学校で英語教育を推進している中国・韓国・カンボジアなどでの小学校英語の実情を現地で見学した。またイギリスでのフランス語教育、ニュージーランドでの日本語教育という小学校における外国語教育の実態を調査することによりさらなる見識を深め、その結果を報告することも本研究の目的とした。

３．研究の方法

英語力を測るツールといえば、英検などの英語資格試験があげられるが、必ずしもそれが教員の必要とする英語力、ひいては英語指導力を測るツールとしてふさわしいかとは言い難い。そこでまず小学校の教員が自分の英語力・指導力を客観視できるようにアンケート・ツールを作成した。英語力は４技能（話す・聞く・読む・書く）に分類し、英語指導力は２分野（教室英語・ALT などとの Team Teaching）に分けて定義しそれを測定することとした。

形式は CEFR（ヨーロッパ言語参照枠）の形式を採用した。これはまず、各能力を６つにわけるという簡易的であるが実用的な言語能力をはかるツールとして、文科省をはじめ世界各国で標準になっているため被験者である教員にとってもなじみのある形式であると考えられたこと、また、CEFR の別名が Can-Do リストといわれるように、できないことに注目するのではなく、その言語・言語領域で「何ができるか」という表現で書かれているので、不安感を持ちがちな被験者にも、情意的なサポートをしながらできることに注目する、またアンケートに回答することでそれぞれのディスクリプターをみることにより、診断的なツールであると同時に、次に目指すべき能力を目標として認識できるであろうというアンケート自体が研修の意味をもっているという考えからツールを作成した。紙面の関係で、すべてのアンケート例を列挙できないが、下記に一例を示す。

	教室英語	ティームティーチング
1	英語で最初の挨拶（Hello. How are you?など）ができる。	ALT の先生と Hello. How are you?と挨拶ができる。それ以外は ALT の先生に授業の進行をおまかせしている。
2	簡単なフレーズで英語で指示ができる(Sit down. Look at me. Listen to the CD、など)	ALT の先生に決まった個所を読んで（発音して）もらうように指示し授業を進めることが出来る。
3	自己紹介を英語でおこなったり、教室で使う英語表現の基礎的なものは使いこなせる。	ALT の先生とロールプレーをして、生徒に会話を聞かせることができる。
4	決まったルーチーンであれば英語だけで指示できる（ビンゴゲームを英語で行うなど）。	授業の中ではある程度の自由な発話を ALT の先生とし、自然な会話を生徒の前ですることができる。
5	英語で説明したことがうまく伝わらない場	授業内の TT はもちろん、授業前後の打ち合わせなどもリラ

	合でも、あわてず他の表現を使っていい直しをすることができる。	ックスして ALT の先生とすることができる。
6	身振り手振りを交えて、生徒の理解度に合わせて英語だけでリラックスして授業をすることができる。	ALT の先生と授業に対する見解が違う場合はそれを英語で的確に説明し、自分が思い描く授業をするために ALT をリードしながら授業づくり・打ち合わせ等を英語ですることができる。

このアンケートを現職の小学校教員に配布し、回答を得た。またこれに加え、より詳しいデータを収集するためにインタビューを行った。このインタビューは日本人の小学校教員に加え、ALT や、地域人材として英語教育に携わっている JTE にも行うことで、小学校における英語教育について包括的な理解ができるように心がけた。

また諸外国での英語教育および外国語教育については、研究者がそれぞれの地域でのネットワーク・知人を通して、現地の先生とのインタビュー・学校訪問、授業参観をした。

４．研究成果

研究成果としては、上記のアンケート（教室英語、ティームティーチング以外に英語の４技能についても言及したもの）を配布し８２名から回答を得ることができた。英語教育に関して、本研究時は、特に移行期間にあたり自治体によってその実施時間や実施方法についてかなりの差があったため、自治体によって偏ることなくなるべく小学校教員の考えや実態を概観できるようにアンケートを配布した。しかし、回収率が３０％ほどでそれほど高くなく、その後は知り合いの教育委員会などを通じてなるべく回答が得られるように工夫をした。

結果としては、アンケート結果は総じてレベル３が多い結果が得られた。これはまず、アンケート作成で小学校教員に目指す能力として最上位としてふさわしいものを６とし、最低限のものを１とした。そしてその間２～５を英語を担当する場合に現実的なディスクリプタとしてデザインしたもので、３が一番多いというのは現状では、英語を何とか担当できる、というラインを示していると考察できる。例えば上記の表の例で言えば、教室英語においては、きまったルーチーンであれば英語を使って授業を行うことができる、またティームティーチングにおいては、こちらもある程度型にはまったロールプレイを児童に聞かせることができるという小学校教員の英語力を客観視することができる貴重なデータを入手することができた。またこれは他の４技能にもおしなべて言えることで、これらの結果をうけ、小学校教員の英語力についての能力がある一定度測定できたと考える。

これに加え、in-depth interview を８名に行った結果を質的分析した。これにより小学校教員が抱えている具体的な不安や新しい英語教育に対する期待、各自治体の予算や時間配分など言語政策が現場の教員に与える影響の大きさ、また担任教員・外部講師・ALT などそれぞれ立場や勤務体制が異なるなかでの役割分担やコミュニケーションの難しさなどがうきぼりになった。また、インタビュー結果や自由記述の文言をテキストマイニングを使い分析するなど、異なるデータをそれにふさわしい分析方法を用いて調査することができた。

また実際の教育現場にも頻繁に訪れた。アンケートで得られたデータ、インタビューデータ、そして実際の教室での英語教育の実情を見学することで観察記録とし、データの triangulation を確立することにより調査研究の信憑性を保つことを心がけた。

これらの研究結果を、学術論文を１６本執筆した。具体的なトピックとしては、小学校英語担当教員の研修に関する意識調査、ティームティーグに対する教員の意識、小中学校の連携からみ

た教科書分析、小学校英語に関する第２言語からの示唆、経験学習からの考察など多岐にわたる。また学会発表も国際会議や招待講演をふくみ合計１５回行った。こちらも小学校英語に関する現状を報告するという小学校英語に関する啓蒙的なもの、また小学校教員向けの研修、本研究で得られた知見を免許更新講習などで活用したり、諸外国での英語教育実践について発表したりなど、小学校英語について本研究が明らかにした多岐にわたる点をより多く周知されるようにした。

また中国や韓国などといった海外の英語教育を視察し、日本より英語教育の早期化が推進されている現状を目の当たりにすることができた。見学した学校では教員が ICT を駆使し、英語が堪能な専科の教員が英語を担当することが多かったが、最近の日本の現状でも英語専科教員が英語を担当することが多くなってきたこと、また中国・韓国での小学校英語教育は進んでいるものの、必ずしも市中で英語が通じるかといえばそうではない、ということを顧みると日本の英語教育にみられる言語政策もそれほど見劣りすることはないなではという現状も明らかなになったことは、朗報であり日本も重要な岐路となるスタートラインに立っていると言える。この意味からもアジアにおける一国としての日本においても、教員養成・教員研修を効果的に行い、英語教育体制を整えていくことが重要な課題である。

また２０１９年に行われたポーランドでの国際会議でも、英語教育が重要視されているのはアジアに限らず、ヨーロッパ諸国でも関心を集めていることがわかった。英語教育を受ける児童生徒がますます若年化していること、その風潮が世界的にみられることよりある意味、児童英語および小学校英語は、世界的に注目を集めている分野であることが新たに認識できた。そして、世界的にみてもこの分野での専門家がまだ数少ないこと、そして現場で優秀な教員を育成することが喫緊の課題であると叫ばれていること、また小中連携など日本で課題となっていることが世界的にも問題であるということなどを耳にすることができた。こういう点から、日本でも英語教育早期化・教科化を受けて、さらなる英語教育の発展を推進していく必要があることが改めて明らかになった。日本において有効な教授法の確率、教員育成、教員研修、校種を越えた学習目標設定、評価などこれからますます研究調査を続けていく必要があることも認識された。

これらの結果を総合し、小学校教員に必要な研修資料としてウェブサイトを立ち上げた。内容としては、フォニックスの導入の仕方、文字指導（リテラシー）のやり方、第２言語習得に基づく評価観点への示唆、ALT との連絡に使える実践的な英語フレーズ集など理論的なことから実践面で役立つような資料を作成することを心がけた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計19件（うち査読付論文　18件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　11件）

１．著者名 山内啓子、作井恵子	４．巻 1
２．論文標題 小学校英語担当教員の研修に対する意識調査	５．発行年 2020年
３．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学紀要	６．最初と最後の頁 189-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10/14946/00002187	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 作井恵子、山内啓子	４．巻 1
２．論文標題 外国語科教科化に対する小学校教員の意識調査：第２言語習得からの示唆	５．発行年 2020年
３．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学紀要	６．最初と最後の頁 165-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10/14946/00002185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Shiobara, F. & Sakui, K.	４．巻 1
２．論文標題 Teachers' attitudes to team-teaching in Japanese elementary schools	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Diversity and inclusion	６．最初と最後の頁 109-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Shiobara, F.	４．巻 8
２．論文標題 When and how to teach reading to beginner learners of English: A comparison of ten ministry of education approved introductory English textbooks	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Journal of the Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University	６．最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10/14946/00002103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shiobara F. & Sakui, K.	4．巻 1
2．論文標題 Teachers' attitudes to team-teaching in Japanese elementary schools	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Diversity and inclusion.	6．最初と最後の頁 109-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shiobara F.	4．巻 8
2．論文標題 When and how to teach reading to beginner learners of English: A comparison of ten ministry of education approved introductory English textbooks.	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Journal of the Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University	6．最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.14946/00002103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 山内啓子	4．巻 3
2．論文標題 小学校英語指導者養成における経験学習の効果	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学　教職支援センター年報	6．最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Keiko Yamauchi	4．巻 20
2．論文標題 Teaching English at primary school in Japan: Current situation and the issues	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Asian EFL Journal	6．最初と最後の頁 142-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shiobara, F.	4．巻 39
2．論文標題 A short course in phonics for elementary schools	5．発行年 2018年
3．雑誌名 JASTEC 39th National Convention Proceedings	6．最初と最後の頁 37-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shiobara, F.	4．巻 5
2．論文標題 Team teaching revisited: The challenges and benefits	5．発行年 2018年
3．雑誌名 The Asian Conference on Education, The Official Proceedings	6．最初と最後の頁 425-435
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Shiobara, F.	4．巻 8
2．論文標題 When and how to teach reading to beginner learners of English	5．発行年 2019年
3．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学紀要文学部編	6．最初と最後の頁 15-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 作井恵子	4．巻 39
2．論文標題 小学校教員の英語力調査と研修についての提案	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本児童英語教育学会　全国大会資料集	6．最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Sakui, K. & Cowie, N.	4．巻 1
2．論文標題 Bridges between SLA Research and Classroom Teaching: Implications From Foreign Language Teaching in New Zealand Primary and Secondary Schools	5．発行年 2017年
3．雑誌名 The Asian Conference on Education, The Official Proceedings	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 山内啓子＆　作井恵子	4．巻 7
2．論文標題 ４技能からみる小学校教員の英語力：自己評価を通して	5．発行年 2018年
3．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学研究紀要文学部篇	6．最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14946/00002039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩崎晴海 ＆ 作井恵子	4．巻 21
2．論文標題 検定教科書における小中連携：Unit 0分析を通して	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Theoretical and Applied Linguistics at Kobe Shoin	6．最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14946/00002022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Shiobara, F., & Yamauchi, K.	4．巻 2
2．論文標題 An Intercultural Comparison of Foreign Language Education in Elementary and Secondary Schools in Three Countries.	5．発行年 2017年
3．雑誌名 Kobe Shoin Women's University Education Support Center Annual Report	6．最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Yamauchi, K.	4．巻 1
2．論文標題 Teaching English to Non-native Primary Learners through Picture Books	5．発行年 2017年
3．雑誌名 The Asian Conference on Education, The Official Proceedings	6．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 作井恵子、山内啓子、Shiobara Frances	4．巻 6
2．論文標題 小学校英語に関する意識調査：小学校教員の視点から	5．発行年 2017年
3．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学研究紀要文学部篇	6．最初と最後の頁 49-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） doi/10.14946/00001969	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 作井恵子	4．巻 4
2．論文標題 小学校英語におけるスモールトークの役割	5．発行年 2019年
3．雑誌名 神戸松蔭女子学院大学　教職支援センター年報	6．最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　3件／うち国際学会　17件）

1．発表者名 Sakui, K.
2．発表標題 Introducing English education in Japanese elementary schools: How can SLA be of help?
3．学会等名 Topics of applied linguistics: Classroom-oriented research（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名 Sakui, K.
２．発表標題 Gender, race and other factors: Being a member of multiple communities
３．学会等名 iAFOR（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sakui, K. & Shiobara, F.
２．発表標題 Essential skills for elementary school teachers
３．学会等名 JALT international conference on teacher efficacy, learner agency（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shiobara, F.
２．発表標題 Teaching children to read English in public elementary schools
３．学会等名 Annual CamTESOL conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yamauchi, K.
２．発表標題 The efficacy of team teaching in Japanese styles at TEENS: GEN (Global Educators Network)
３．学会等名 TEFL 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yamauchi, K.
２．発表標題 Team teaching and its practice in Japanese elementary school
３．学会等名 CamTESOL（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 Keiko Sakui
２．発表標題 Introducing English education in Japanese elementary schools: How can SLA be of help?
３．学会等名 Topics in applied linguistics: Classroom-oriented research（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Keiko Sakui
２．発表標題 Gender, race and other factors: Being a member of multiple communities
３．学会等名 iAFOR（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Sakui, Keiko & Shiobara, Frances
２．発表標題 Essential skills for elementary school teachers
３．学会等名 JALT international Conference on teacher efficacy, learner agency（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Shiobara, Frances
２．発表標題 Tedrchaching children to read English in public elementary schools.
３．学会等名 Annual CamTESOL Conference（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yamauchi, K.
２．発表標題 The efficacy of team teaching in Japanese styles at TEES: GEN (Global Educators Network)
３．学会等名 TEFL 2019（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Yamauchi, K.
２．発表標題 Team teaching and its practice in Japanese elementary school
３．学会等名 CamTESOL（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 作井恵子
２．発表標題 小学校教員の英語力調査と研修についての提案
３．学会等名 日本児童英語教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shiobara, F.
２．発表標題 A short course in phonics for elementary schools
３．学会等名 日本児童英語教育学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shiobara, F.
２．発表標題 Team teaching revisited: The challenges and benefits.
３．学会等名 The Asian Conference on Language Learning
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shiobara, F.
２．発表標題 The challenges and benefits
３．学会等名 Tokyo JALT（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shiobara, F., Sakui, K., & Yamauchi, K.
２．発表標題 Teachers' attitudes to team teaching
３．学会等名 JALT（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Shiobara, F.
２．発表標題 Teaching children to read English in public elementary schools
３．学会等名 CamTESOL（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Sakui, K. & Cowie N.
２．発表標題 Bridges between SLA Research and Classroom Teaching: Implications From Foreign Language Teaching in New Zealand Primary and Secondary Schools
３．学会等名 The Asian Conference on Education（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yamauchi, K.
２．発表標題 Teaching English to Non-native Primary Learners through Picture Books
３．学会等名 The Asian Conference on Education（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Yamauchi, K.
２．発表標題 Teaching English at primary school in Japan
３．学会等名 TESOL Asia（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	Ｓｈｉｏｂａｒａ　Ｆｒａｎｃｅｓ (Shiobara Frances) (50750262)	神戸松蔭女子学院大学・文学部・講師 (34513)	
研究分担者	山内　啓子 (Yamauchi Keiko) (60411906)	神戸松蔭女子学院大学・教育学部・教授 (34513)	